



第16回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

起業という道

東京都・東京都立国際高等学校 2年 中村 生

「世の中は忙しいね。」

そんなことを学校の昼休み、友達がふとつぶやいた。本当にそうだ。テレビをつければたくさんのニュースが耳に入ってくる。オリンピック、少子高齢化、グローバル化など。このような大きな話でなくても、私たちの身の周りの状況は常に変化し続けている。

状況が変われば、それを取り巻く問題も変わる。以前は、全く問題視されていなかったことが時代の変化、環境の変化によって、私たちにとって大きな問題になったりする。

社会の課題が常に変わり続ける世の中で、私たちはどのように、そのような課題と戦っていけばよいのだろうか。

私は、ここで「起業」という道を方法の一つとして提案したい。起業とは「新しく事業を起こすこと」(広辞苑)で、私たち高校生にとっては遠いもののように感じる。だが、私は起業というのは課題に対して最も柔軟で強力な特効薬だと思っている。そして、私たち高校生など若者とと言われる人にもできることであり、若者だからこそ起業に挑戦するべきだと考える。

このように考えるようになったのは、高校2年生の夏休みの、ある高校生対象の起業について学ぶキャンプへの参加がきっかけだった。このキャンプは、GTE (Global Technology Entrepreneur) といって、世界中の高校生が日本に集まり、ビジネスリーダーとしての志からアイデアの出し方、ファイナンスまで、ビジネスにおける基礎を学び、最終日に起業のプランを立てて、コンテストで発表するという5日間のイベントだ。自分のお小遣いの計算もできなかった私にとっては、このキャンプは挑戦だった。

このキャンプで学んだことは二つある。一つは、起業はお金儲けの方法ではなく問題を解決する方法だということだ。

キャンプ初日、「起業って、どうやってやるのだろうか」と考えていた私に、先生が突然、自分の好きなものや興味があるものを紙に書いて一人ずつグループでまわすように指示をした。全員が書き終えた後、先生はそれぞれのトピックについて問題を書き出し、その解決策を考えて書くように指示した。私が興味のあることは、教育だったので、日本の英語教育の質が悪いという問題点を書いた。そして、もっと会話をベースとした授業をするということを解決方法の一つとして書き出した。それから、「生徒が会話をしやすいように会話中に日本語訳がすぐ分かるといい」「次は何と言えればいいかも、その瞬間に分かるといい」という意見がグループ内で出た。すると次に、先生は「そのアイディアで何か作れないか考えよう」と言い、私は一つの製品を思いついた。それは、会話をしている最中にかける眼鏡で、ネイティブ・スピーカーが話している英語の訳や、おすすめの答え方が眼鏡のレンズに映るといったものだ。

それをみんなに言うと、先生は「じゃあそれで起業できる」と言った。そして「今、思いついた眼鏡を発明して、会社を作ればいい」と続けた。その瞬間、なるほどこれが起業か、と思った。別に、儲かりそうな事業に手を出すというわけではなく、今ある日常の問題を見つめ、解決策を考え、形にする。起業は、問題解決の一つの道なのだと思った。

私が学んだことの二つ目は、高校生にも起業ができ、高校生だからこそ起業することに大きな意味があるということだ。

先生の授業は続き、私たちには一つの課題が与えられた。チームで一つビジネスプランを考え、最終日のビジネスコンテストでプレゼンテーションをするという課題だ。本当にできるのだろうか、と正直思った。お金のことも何も知らない私が起業できるのだろうか、と。

私たちの案は、食物アレルギーがある人のためのアプリの開発だった。食物アレルギーは日本のような先進国で増えている。大人になるとアレルギーがなくなる人が多い中、私たち高校生にとっては意外と身近な問題なのだ。また、海外では食物アレルギーに注目したアプリが開発されているが、日本にはない。そんな理由を挙げながら、私たちの話し合いは進んでいった。

食物アレルギーに配慮した飲食店やレシピを探す機能、食物アレルギーについての悩み相談ができる機能を作った。金銭面において、アプリの開発や維持

にかかる金額や、どのように資金を得ればよいか分からないときは、先生にアドバイスをもらった。そのアドバイスで、ファイナンスの案を形にすることができた。

そして、コンテスト当日、実際の起業家が審査員として並ぶ中、私たちのチームは優勝することができた。コンテストの後、審査員に、食物アレルギーに苦しんでいる人やその親に注目するという視点や、実現性に富んだファイナンスのプランをほめてもらった。

このことから、高校生という経験があまりない人でも、しっかりアドバイスをしてくれる人が周りにいて、情熱をもってやり遂げれば、起業ができると分かった。また、高校生という若いうちだからこそ、見落とされがちだが重要な現代の問題に気づくことができ、新しい解決方法を考え形にできるのだと思った。

起業は、常にめまぐるしく状況が変わる今の時代、既存の企業では解決できない問題を柔軟に解決する方法だ。そして起業は、若い人でもできるものであり、むしろ一番今の世界のことを鋭く見ている若者だからこそ、起業することに意味があるのだと思う。

私は将来、教育にかかわる仕事をしたいと思っている。教師、教授、ユネスコ、NGO、NPOなど教育にかかわる仕事というのは、世の中にたくさんある。私は以前、どこが一番自分の理想の仕事ができる場所なのかと考えていた。しかし、今回このキャンプに参加して、どこかの組織に所属しなくても、教育関係で起業する、組織を立ち上げるという道もあるのだと分かった。こちらのほうが私のやりたいことが直接できるかもしれない。

これからの社会において、国際的な問題、国内の問題、身近な問題は増えていくだけではなくて、変化していく。既存の組織や会社だけではそのような問題に取り組むことが難しくなってくるのではないか、と思う。

そんな世の中に、起業という形で、柔軟で強力な「特効薬」を生み出していきたい。